

令和6年度小松市立串小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	〈発達支持的生徒指導の推進〉	○学校は楽しい。（児童） ○なりたいクラス、学校になるためにがんばっている。（児童） ○元気に学校に行っている。（保護者）	
	・全教職員が一人ひとりの児童にわたる声かけ、具体的な成長を評価する言葉かけを意識的に行う。 ・「どんな姿になりたいか」目標を考えさせ、目標に向けての活動を児童自身が企画、実践できるように支援するとともに、生徒指導の4つの視点（自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安心、安全な風土）を生かした授業づくりを行い、児童の主体性を育む。 ・いじめアンケートや面談タイムを生かして、いじめ・不登校の未然防止や早期解決に努め、児童一人ひとりが「学校が楽しい」と思えるようにする。		
特別支援教育	〈組織的な対応を行い、個に応じた支援の充実を図る〉	○必要に応じて児童理解の会を開き、全職員間で児童の情報共有を行い支援を生かしている。（教員） ○チームで特性のある児童等の支援を行い、組織的に対応している。（教員）	
	・特別支援校内委員会で児童の現状を共有し、支援のあり方について話し合い、適切な支援を組織的に行う。 ・特別支援教育支援員、学習支援員、スクールカウンセラー、心の相談員の効果的な活用を行い、支援体制の充実を図る。 ・小松市教育研究センター相談事業、県専門相談員派遣事業を活用し、個に応じた支援の充実を図る。 ・学年間・全職員間で支援の在り方について話し合い、生徒指導との効果的な連携を図りながら、チーム力を生かして適切な支援を行う。		
道徳教育	〈確かな道徳性を育む道徳教育の推進〉	○構想シートを活用し、考えたい発問、自己の生き方について考えを深める交流等を工夫した授業を実践できた。（教員） ○道徳の時間は大切であると考えている。（児童）（保護者）	
	・考えたい発問、自己の生き方について考えを深める交流を工夫した道徳科の授業を実践する。 ・教育活動全体を通して日常的に道徳的価値を意識できる言葉かけを行う。 ・重点目標の「善悪の判断、自律、自由と責任」「より良い学校生活、集団生活の充実」を意識した活動を設定し効果的な指導に努める。 ・学校研究の1つとして授業構想シートを学期に2回活用する。 ・夏休み、冬休みの家庭学習として、「家族道徳」に取り組み、家庭でも道徳的価値を意識できるようにする。		
保健健康教育	〈望ましい生活習慣の確立と体力・運動能力の向上〉	○早寝・メディアとの関わり方を中心に、健康的な生活を意識している。（教員・児童・保護者） ○50m走の記録を定期的（6月下旬）に計り、効果を検証する。	
	・メディアへの適切な関わり方を中心に健康的な生活への意識が高まる取り組みを継続し、望ましい生活週間の確率をめざす。 ・体力アップ1校1プランの取り組みを推進することにより、「RUN RUN トレーニング」（スプリントドリル）を通して、体力・運動能力の向上を目指す。また、全校でスポチャレいしかわの8の字とびに取り組み、体力アップの推進を図る。		
人材育成	〈若手の指導力育成〉	○若プロ校内研修会は、指導力向上につながっていると感じている。（教員） ○体育科の授業力が向上したと感じている。（教員）	
	・計画的に若プロの校内研修を行う。GIGA研修を中心に行い、若手が学んだことを職員全体に広めていく。 ・体育科のミニ研修会を行い、ルール意識や勝敗に対する態度の効果的な指導について学ぶ機会を設ける。 ・それぞれの教員が得意とする分野を生かし、研修内容にあわせて担当者を選ぶ。		
家庭・地域との連携	〈社会に開かれた教育課程の実現〉	○地域を理解し、地域の愛着を高める取組を実践した。（教員） ○生活科や総合的な学習の時間等を通して、地域のことについて考えることができた。（児童）	
	・生活科や総合的な学習の時間、道徳を中心に、地域人材、地域教材の開発を行い、地域を理解し、地域への愛着を高める取組を行う。 ・家庭・地域に、学校だよりやホームページを活用して、学校の教育活動について積極的に発信する。		

学校関係者評価	
---------	--